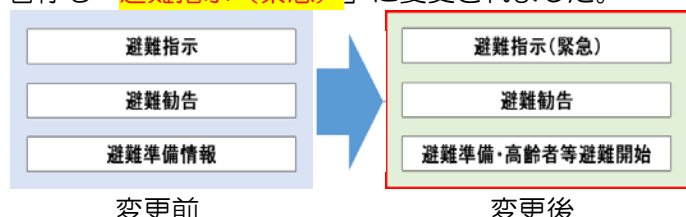


シリーズ 防災・思いの丈

今回は「覚悟を決めろ」について考えてみます。

平成28年の台風第10号による水害では、死者・行方不明者27人が発生する等、東北・北海道の各地で甚大な被害が発生しました。とりわけ、岩手県岩泉町では、グループホームが被災し入所者9名全員が亡くなる等、高齢者の被災が相次ぎました。

そこで「避難準備情報」という名称について、これらの水害で、高齢者施設において「避難準備情報」の意味するところが伝わっておらず、適切な避難行動がとられなかったことが課題とされました。そこで、高齢者等が避難を開始する段階であるということを確認にする為に「避難準備情報」を「**避難準備・高齢者等避難開始**」に名称が変更され、同時に、いざという時取るべき行動が分かりやすいように「**避難指示**」の名称も「**避難指示（緊急）**」に変更されました。



この情報を聞いて始めて「**避難勧告**」以外が存在することを知ったという方が多いのではないのでしょうか？そこで、これらの情報を解説します。

【避難準備・高齢者等避難開始】

避難勧告や避難指示（緊急）を発令することが予想される場合に前もって発令されます。

もし発令されたら？

- 避難に時間を要する人（ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等）とその支援者は避難を開始します。
- その他の人は、避難の準備を整えます。



【避難勧告】

災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合に発令されます。

もし発令されたら？

- 速やかに避難場所へ避難をします。
- 外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をします。



【避難指示（緊急）】

災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合に発令されます。

- まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難をします。
- 外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をします。



さて、この3つの違いは本当のところ広く国民に知られていないのでは無いですか？特に「**避難指示（緊急）**」は緊急性があるにもかかわらず、非常に暢気な言い回しに聞こえます。

「**避難指示（緊急）**」よりも、東日本大震災時の茨城県大洗町で発令された「**避難命令**」ではダメなのか？「**避難命令**」の方が判りやすいのでは？「**命令**」と云う文字に問題があるのかと思い、ちょっと調べてみました。するとNHK放送文化研究所発行「放送研究と調査・2011年9月号」にメディア研究部（放送用語）井上裕之氏が寄稿した「**大洗町はなぜ『避難せよ』と呼びかけたのか**」の中に答えがありました。

そこには2つの言葉がありました。「**避難命令**」と「**避難せよ**」この2つの言葉は、法律・行政上は存在しない言葉であり、災害対策基本法上、避難について定められている言葉は「**避難勧告**」と「**避難指示**」の2つなのです。しかし、「**避難命令**」と「**避難せよ**」を聞いた市民は次のように話しています。

「居間の受信機で『**避難命令**』と言っているのを聞き、『これは命令なんだから』と思って避難した。地震で倒れた、店の酒瓶の片づけもあったし、出るなら戸締まりもしなければならぬので、『命令』と言われなければ避難しなかったかも知れない」と云う。

法律・行政上、避難に「命令」という言葉がないことについて総務省消防庁は「一般論として『命令』という言葉は、法律上は『義務』が発生し、怠った場合にはペナルティが伴うもの。避難という行為は、しなかったからといってペナルティを科されるような性質のものではない」と説明している。つまり大洗町は今回、法律・行政上は「**避難指示**」にあたる行為を「**避難命令**」と言いかえた表現で呼びかけていたことになるのです。また、総務省消防庁は「そもそも『避難』とは、従わせるためにむりやり身体を引っ張っていくとか、罰則を設けておくようなものではない。促すものであり、尊重してもらうもの」「もし強制力を持つ『**避難命令**』ならば、そのぶん出す側の市町村長に『**責任**』が発生するので、躊躇するケースが増えるかも知れない。『**避難勧告**』や『**避難指示**』ですら市町村長は出すのに迷うことがあると聞いている」とも説明している。法律上「命令」には、「義務」や「ペナルティ」が発生するというのが一般的な考え方ようです。塩釜市→



以上のことから、「避難」に関して、市町村長の躊躇で人の生死が決まってしまうように聞こえるが、実際には「避難するか？避難しないか？」は『**あなた自身が決めることなのです**』その為にも、**あなた自身が「覚悟」を持って行動する**。これが大切なことなのです。次回は「覚悟を持って」を考えます。